
とある魔法先生と超能力者

七天七刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔法先生と超能力者

【NZコード】

N13800

【作者名】

七天七刀

【あらすじ】

――第三次世界大戦後――

学園都市の超能力者『レベル5』第6位、七海修也は、アーカイビング・最大主教の失敗により、無能力者『レベル0』上条当麻と共に異界の地へと飛ばされた――。

科学と魔術と魔法が交差するとき、物語は始まる――。

始まりの不幸ことばっかり

「理不尽だ」

七海修也は他人のとばっちりを受けやすい人間である。

現在彼が居るのは、学園都市の内の、ボロボロになつて今にも崩れ落ちそうなビルの中。

只今の時刻は5時30分。

本来なら、既に学生寮に着いているはずなのだが、七海は廃ビルの中に居る。

理由は簡単、とある親友がバカをやらかしたからである。

「上条、君はなんてことしてくれたんだい」

七海の振り返った先には、黒髪でツンツン頭の少年がいる。
彼は上条当麻。

七海修也の友人の一人で、とある理由から常時不幸に襲われまくっている、もはや『不幸の塊』と呼んでもいいくらいの超絶不幸人間である。

「やつちましたことはしようがないだろー! 嘘ならワタクシ上条当麻の不幸フリーバーを恨むことですねーははははー!」

「けど、なんで僕まで巻き込むのかな。やつたのは僕じゃないのに。それに君はこの状況がしようとおもえるのか?・・・・不^良30人に追い回されているこの状況がそ」

始まりは単純だった。

もう一人の友人である土御門元春と共に帰宅している最中に上条が自動販売機で買った「コーヒー「コーラ」をすつ転んで不良にぶつかってしまい（上条の不幸はこの時も発動していたらしく、コーラはまだかなり残っていた）、コーラで全身ベトベトになつた不良に追い回され（土御門は既に行方をくらませていた）、しだいに不良の数が増えていき、上条と七海は彼らから逃れるために近くにあつた廃ビルに隠れ、現在に至つている。

「まあ、そこはエスパー七海さんの超能力にお任せします」

「ひどい！まあ、確かに僕は超能力者《レベル5》だけどさ……」

七海修也は学園都市に七人しかいない超能力者《レベル5》の第六位である。

彼の能力は光闇制御。ライトリバース

光と闇を制御し自在に操ることができるのである。しかし、この能力には欠点がある。光と闇の区別が曖昧になる明け方と夕方には、強能力者《レベル3》程度まで力が落ちてしまうのである。

「それに、君の右手はそこらの不良には全然意味無いしね

「ぐつ……」

上条当麻は無能力者《レベル0》である。

しかし、上条の右手には幻想殺し《イマジンブレイカー》という相手が異能の力なら、善悪強弱関係無しに神のルールすら打ち消す力が宿っている。

・・・その力によつて上条は神の加護の類も打ち消してしまつてい

るため、ばんばん不幸になつていい訳なのだが。

「セレ……セリナの部屋も限界みたいだよ?」

「は? 何を言つて『おい、見つかったか!?』つツツー。」

「わあいいす……つて、あれ?」

上条、この部屋つて奥に扉なんかあつたつけ?」

「は?」

この部屋は個室になつていて奥に部屋などないはずなのだが、いつの間にか入つて下さいと言わんばかりの扉があつた。うすよこれたボッロボロの壁に全く合つていない、なんかえらべ莊厳な雰囲気の扉である。

「……七海さん。上条さんはとつもない不幸な予感がするのですが」

「奇遇だね。七海さんも理不尽などばつちつを取られる気がするよ

「でもこのは……入るしかな……」

意を決して彼らは扉に突入し、そして「あ、失敗してしまつたにつきなのよー」とこう声をとーーとつもない浮遊感に襲われた。

「……上条、これはアレだね……」

「……ああ……」

そう、彼らは何故か空中にいた。

先ほども聞こえた変な声が、『あー もしもし、スティル? ちよつと・・・』とか何とか言つてゐるのを聞きながら、物理法則に従つて二人の体が落下していく。

空中は浮かふ扇かひとりてはノタンと閉じ
粒子となつて消滅した

学園都市内、とある学生寮の前。

上条達と別れて（逃げ出して）そこへ迈をふるふるした後に寮に入ろうとしていた土御門が、突然顔を上げた。

「（）」これは・・・魔力の流れか・・・・?」

スッと細まつた土御門の目が、青いサングラス越しに件の廃ビルを見つめる。

そしてロンドン、聖ジョージ大聖堂では・・・

「ひつひいー、スタイル、神裂！ 剣を持つて私を追い回すのは止めにつきなのよー！ 炎剣とか当たつたら死んじゃうーつー！」

「つるさい黙れ！大体あなたはいつもいつも面倒な事ばかり持つてきて、それでよかつたためしが無い！あの子のためにも一度死んで

「説ぎるべきだーーー！」

「スタイルの言つ通りですーーまた土御門に『組長の借りは組員の借りだからさつと返すにやー』とか言われたらビデオするつもりですかッ！私はもう堕天使エロメイドなど着たくはないところにツッ！」

怒号と悲鳴と、何かが破壊される轟音が響き渡っていた。

始まりの不幸とひばり（後書き）

どうも、作者の七天七刀です。今作はとある魔術の禁書目録とネギ
のクロスオーバーになるのですが、自分は文才がないので、少々
おかしくなっている箇所があれば指摘してもらえれば幸いです。
でわでわ。

オリキャラ設定（前書き）

お久振りです。最近はテストで忙しく更新できませんでした。おゆるじください。今回は七海君の設定紹介です。

オリキャラ設定

名前 七海 修也

性別 男

年齢 16歳

一人称・二人称・三人称 僕・君・彼（彼女）

性格 比較的穏やかだが、自らの信念に合わない人間は嫌う。こと最大主教のことになると毒舌になる。他人のとばっちりを受けやすい体質をもつ。

特技 自炊（既に料理の域）

好きなもの 努力

嫌いなもの 組織、最大主教

設定 七海は上条同様記憶が破壊されている。

容姿 髪は緑髪。顔はいたつて普通。

能力 光闇制御 レベル5 第六位。
ライトリバース

昼には光を操り、夜には闇を操る能力。光は収束させることで剣や槍、盾や弓、足場を作り、身体能力を強化して光の速さを得ることができる。闇は収束させることで双剣、ライフル、鎖を作ることができ、闇に溶け込むことによる気配遮断や、闇で侵食することができる。

とで、飛び道具は半径3メートル以内、武器なら触れることで自分の物にできる。なお、光と闇の割合が曖昧な明け方と夕方には光と闇の両方を操れるものの、レベル3程度まで能力が低下する。

免罪符
インディジョンズ

七海の左手に宿る正体不明の力。効力としては、神の右席レベルかそれ以上の力を封殺もしくは迎撃するというもの。墮天落としのように広範囲もしくは使用者の位置が不明の場合は封殺、個人に向けられ、なおかつ使用者の位置が特定されている場合は迎撃する。使用中は光闇制御は使えなくもないが、使おうとすると脳に多大な負担がかかる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1380o/>

とある魔法先生と超能力者

2011年2月24日15時54分発行